

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

医療事故・有害事象の把握手法に関する研究

（H25-医療-一般-003）

平成 26 年度

総括研究報告書

2015 年 3 月

研究代表者

長谷川 友紀

東邦大学医学部社会医学講座

## 研究組織

研究代表者	長谷川友紀	東邦大学医学部社会医学講座
研究分担者	飯田 修平	公益社団法人全日本病院協会
	西澤 寛俊	公益社団法人全日本病院協会
	北澤 健文	東邦大学医学部社会医学講座
研究協力者	松本 邦愛	東邦大学医学部社会医学講座
	藤田 茂	東邦大学医学部社会医学講座
	瀬戸 加奈子	東邦大学医学部社会医学講座
	伊藤 慎也	元東邦大学医学部社会医学講座
	吉田 愛	東邦大学医学部社会医学講座
	小谷野 圭子	公益財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院
	長谷川 英重	OMG アンバセダ

## はじめに

医療安全活動の効果判定には、有害事象の様態別発生頻度を客観的な数値により明らかにする事が不可欠である。米国 AHRQ ( Agency for Healthcare and Quality ) は、1990 年代前半から医療の質に関するデータを収集しており、患者安全領域の指標群を PSI ( Patient Safety Indicators ) として整理している。

我々はこれまでに、AHRQ の技術仕様に基づき DPC/PDPS ( Diagnosis Procedure Combination/Per-Diem Payment System ) データに適した算出条件を設けることで、DPC/PDPS データから PSI の算出が可能であること、PSI を用いて周術期ケアを評価できる事等を明らかにしてきた。

本報告書では、平成 26 年度に実施した以下の研究成果を取りまとめた。

1. 米国オバマ大統領が主導する医療制度改革の概要を明らかにし、その核心である ACO ( Accountable Care Organization )、EHR ( Electronic Health Record ) の「意義ある利用 ( Meaningful Use : MU )」等の最新の動向を明らかにした。
2. DPC/PDPS データから周術期ケアに関連する PSI を算出し、医療安全対策加算算定状況との関連を明らかにした。

医療安全は米国医療制度改革においても重要な課題であり、ACO の評価においても PSI などの臨床指標が活用されている。我が国においても DPC/PDPS データベースやレセプト情報・特定健診等情報データベースをはじめとするビックデータを分析し、その結果を医療の質向上に活用しようとする動きが本格化すると考えられる。本研究の知見が、今後の医療の質向上に寄与することを祈念する。

研究代表者  
長谷川 友紀